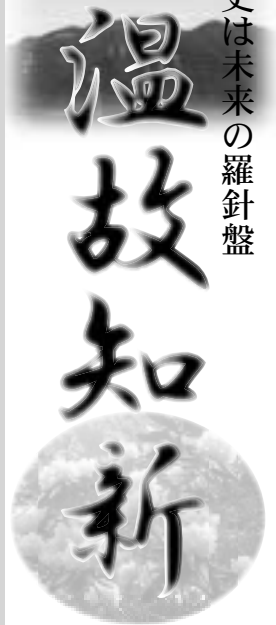


歴史は未来の羅針盤



日野町史『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」を平成一七年二月に刊行しました。第二巻「文化財編」は平成一八年度末に刊行予定です。今後、町史の内容や調査報告などを紹介していきます。皆さんに町史に親しんでいただき、実際に手に取ってご覧いただきたいと思います。

に分布しています。このように、町内の山地は、海底でできたものやマグマの活動によりできたものなど、さまざまな種類の岩石で構成されていることが分かります。

今回は、「自然編」第三章「地質と地形」から日野町内の岩石のなりたちを紹介します。

### 岩石のなりたち

町内の山地には、さまざまな種類の岩石が分布しています。

綿向山や浄善坊山一帯には、灰黒色や黒色の砂岩や泥岩が多く見られます。砂岩とは砂が、泥岩とは泥がもととなってできた岩石です。

龍王山から綿向山北側にかけては、やや緑色がかった緑色岩があります。この岩石は海底火山の噴出物である火山灰や溶岩からできています。

石楠花溪から宝殿ヶ岳一帯には、縞模様特徴的に見えるチャートと呼ばれる岩石が多く見られます。チャートは、主にプラントンなどの遺骸をもとにできたものです。このような岩石のほかにも、大字

熊野や大字北畑の水木野付近で石灰岩が所々で見られます。石灰岩とは石灰質の骨格をもったサンゴや貝などの遺骸がもととなってできた岩石です。

これらの砂岩や泥岩・チャート・石灰岩は総称して堆積岩と呼ばれています。堆積岩は一億五〇〇〇万〜二億五〇〇〇万年前の砂や泥、そして海底の堆積物がもととなり、何億という長い年月と地殻変動などを経て固い岩石となっていたのです。

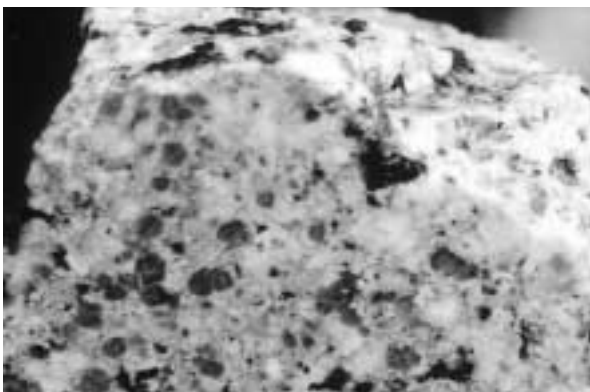
堆積岩とは別に、マグマ活動でできた岩石も分布しています。石子山西側半分や平子峠一帯、蔵王ダムに分布している「等粒状組織」の花崗岩は、石英・長石・黒雲母で構成されています。

また、花崗岩と同じ鉱物で構成されていますが、組織が違う「斑状組織」の花崗斑岩と石英斑岩もあり、綿向山・水無山・砥山・宝殿ヶ岳に分布しています。

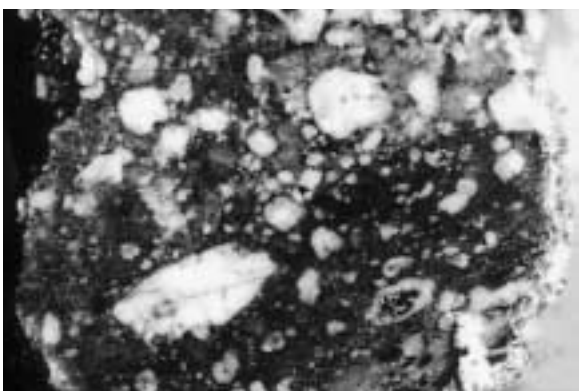
花崗岩は構成している結晶の大きさが揃っているのに対して、花崗斑岩と石英斑岩は構成している結晶の大きさが揃いません。この現象は、マグマの冷却速度の違いにより生じたものです。

このほかにも、溶結凝灰岩や湖東流紋岩などマグマの活動でできた岩石があり、町内の山地の所々

◆『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」発売中  
各公民館や教育委員会において、一冊四、〇〇〇円（税込み）で販売しています。ぜひお買い求めください。



▲等粒状組織の花崗岩



▲斑状組織の花崗斑岩